

平成29年度の資料保全(製本)研修会・図書館ツアーなど

平成29年11月16日と11月30日の2回、都内区市町村立図書館と都関係機関(東京都公文書館、東京都議会図書館、首都大学東京学術情報基盤センター、東京都現代美術館美術図書室)の職員を対象に資料保全(製本)研修を行い、合わせて43名が受講しました。これは都立中央図書館が東京都の公立図書館として唯一持っている製本や資料保存に関する知識・技術を少しでも東京都全体に広めていこうと、平成15年度から行っているものです。大変、人気のある研修会ですが、対応に限界があるため、参加者は、各自自治体・機関から原則として1名に絞っていただいて実施しています。保存や修理に関する基本的な考え方や知識を学び、身近にあるページの破れやノドの傷み、表紙の外れた本の修理などの実習を行い、正しい知識と基礎的技術の習得を目指しています(講師は資料保全室職員)。今までの研修会での主な質問と回答については、[保存・修理についてのQ&A](#)をご覧ください。

また、館内職員向けには資料保全(製本)研修を7月に行い、10月には資料防災訓練(説明会)を2回行いました。(都立図書館Facebookへのリンク参照)

そのほか、「図書館ツアー」の一環として、9月27日、9月28日と3月15日の3回、資料保全に特化した「本の修復見学ツアー」、2月21日には「本の修復見学と和装本づくりツアー」を行い、都民の皆様大変好評でした。

また、平成29年度も、資料保全室の業務は、資料防災動画「被災・水濡れ資料の救済マニュアル」制作や岩手県陸前高田市立図書館の新館オープンに関係してなど、多くのメディアで取り上げられました。



資料防災動画「被災・水濡れ資料の救済マニュアル」



新築された陸前高田市立図書館に設けられた東京都立中央図書館によって修復された被災資料展示コーナー